

ダイイングコード、酸素生物学合同若手会議に参加して
東邦大学医学部生化学講座 学部4年 竹田若水



2018年1月30日から2月1日まで宮城県仙台で開催されたダイイングコード、酸素生物学合同若手会議に参加し、私は本会議が人生初めてのポスター発表の場となりました。本若手会議では、ネクロシス様のプログラム細胞死の一つであるパイロトーシス、またインフラマソーム、炎症やがんなどの発表が多かったように感じました。ダイイングコードと酸素生物学の互いの知見を生かし合うことで、新たな方向から物事を捉えることができ、活発な質疑応答が繰り返されていたように思いました。また後藤由季子先生の特別講演での脳の幹細胞の分化に関するお話はとても興味深く、瞬間に90分が過ぎていきました。自分の研究に対して楽しそうに、そして分かりやすくお話しされる姿は印象深く、私にとって憧れの存在となりました。

今回私は「家族性大腸腺腫症および、クローン病モデルマウスにおけるインターロイキン-11産生細胞の同定」という演題でポスター発表を行ってきました。去年の4月に研究室に配属をされて、実験を始めて約一年間。あっという間に過ぎていった日々の成果がポスターになった時はとても嬉しかった一方で、自分の研究に興味をくれる人はいるのだろうかと思い、期待と不安でいっぱいでした。いざ始めてみるとたくさんの方が来てくださり、本当に嬉しかったです。どちらの分野の諸先輩、先生からも様々な質問をして頂き、自分のテーマに対するこれからの進むべき道がより明確になりました。また質問に対して、自分の知識不足を痛感する場面があり苦い思い出となりましたが、私にとっては良い刺激となり、有意義な時間を過ごせたと思います。

また、懇親会では歳の近い女性の先輩方と研究テーマ、研究室の話、どうして博士課程に進もうと思ったのか、といったこの若手会議ならではの話ができて、「自分も頑張ろう！」とすることができました。2泊3日を過ごした5人部屋では、みんなで温泉に入ったり、寝食を共にすることで友好を深めることができ良かったです。

この若手会議で私は3つの目標ができました。それは、今回出会った先輩方のような発表や質疑応答に答えられるように自分も頑張ろうということ。知識をつけること。好印象な質問をできるようにすることです。学部生が終わり、修士課程が始まる前にこのような目標ができ、これからの日々が楽しみになりました。

最後になりますが、このような刺激的な経験ができたのも、会場の設営や当日までの準備をしてくださった、山口先生、四元先生、船戸先生、杉浦先生をはじめとした先生方のおかげであります。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

